

「めざせ 日本一！」  
— 心と力を合わせよう —

「幸せを願って」

NO.254

H27. 9. 1(火)  
(株) ユ キ  
ダスキン新居浜支店  
社長 小野 正師

「らしく、かっこよく」?

合掌 いつもありがとうございます。

台風一過、四国は早くも優しい秋の風が吹き始めました。全国の皆さまの所は、如何でしょうか。

さて、ダスキン本社のある大阪・江坂には、ほぼ毎月何かの会合があり、よく足を運んでおります。宿泊は新大阪のホテルを利用しておりますので、地下鉄御堂筋線によく乗ります。ある日の朝9時前、まだ少々電車が混んでいる時間帯に乗り込み何気なく壁面を見ていると、あるポスターが目に入ってきました。それは、ある有名な人の顔(NHK テレビしか見ない私でも知っているイケメンさんです)と一緒に「らしく、かっこよく」と書かれた、あるエステ会社の宣伝広告でした。

じつと何気なく見ていましたが、ふと「らしく…は、あり得ないよなあ」と、つぶやいている自分に気づきました。学業も仕事も人生も生きがいを持って楽しく前向きに取り組むことが大事ですが、そこではどちらかと言えば苦しく辛い事の方が多いものです。だからこそ、自分の夢や目標に向かって努力を重ねます。その末に達成した時の感動や充足感の前には、そんな悩みや苦労は吹っ飛んでしまいます。汗と涙を流し、恥もかきながら、人間は成長していくものです。辛く厳しいからこそ、知恵を働かせ、工夫を凝らし、より成長していくのです。それでも、人間不器用で泥臭くとも、やはり「かっこよく」は生きたいなと思うのです。

さて、「かっこよく」とは、どういう生き方なのでしょう。見た目やお金や地位やスマートさだけではないはずです。特に若い時は未熟なので、何度もチャレンジして、失敗し痛い目にも遭いながら、少しずつ力を付けて行きます。最初は、自分の事をするだけで精一杯でしょう。いつも、誰かに助けて教えてもらいながら、少しずつ力がついて行きます。そして、力がついたなら、家族や仲間や地域のために、誰かの為に、少しでも役立てる人間になりたいと願います。周りに喜ばれる生き方を追求する。助けてあげられる人になる。それが、大人のカッコいい生き方ではないでしょうか。「どろくさくとも、しんどくとも、かっこよく」、生きたいものです。

亡くなられた船井幸雄氏は、こう話しておられます。『人間の生き方は、三つの段階に分けられます。基本レベルは、「テイク・アンド・テイク」の生き方で、欲しいものは無償で他から得たほうが得だという価値観。次のレベルは「ギブ・アンド・テイク」で相手に利益を与え、自分もまた利益を得ることをよしとする価値観です。これは見返りを求めた奉仕ともいえますが、35歳くらいまでにはここまで到達しておきたいものです。そして上級レベルは、見返りを求めず与えることをよしとする「ギブ・アンド・ギブ」の生き方。若いうちは難しいですが、55歳近くになったらひたすら与える生き方をするのが、幸福の鍵だといえるでしょう。』

親子関係に例えるなら、子どもの頃は、親からしてもらいばかりです。それが、中学生の頃から、大した事もできないくせに、いっばしの口を聞くようになり、自分一人で大きくなったと勘違いしています。やがて、大学進学や社会人になって、世の中の荒波に少しずつ揉まれ始めます。親の本当の有り難さに気づき出すのは、自分が親の立場になってからでしょうか。それとも、親がいなくなってから、やっと分かるのかもしれませんが。自分に次を育てる責任や使命が生まれないと、悲しいかな、なかなか気づかないものです。親は子に対し、ずっと「ギブ・アンド・ギブ」で接してくれていました。

佐藤芳直先生から教えていただいた「恩送り(おんくり)」も、そうなのでしょう。親や先輩や周りの人々から受けてきた恩に気づいたなら、その人たちに返すことはもちろんですが、それだけではなく、次に続く子ども達や後輩、次代を担う若者に愛情を注ぎ、先代から受けた恩を次世代に返していくのです。人の歴史は駆伝のように、先人から受け取ったタスキを大事に受け継ぎ、心を込めて育て、次代に繋いでいくのです。

昔見た映画、ある少年が世界平和を願った「ペイフォワード」にも、感動しました。ペイバック(もらったら返す)ではなく、誰かに受けた恩や喜びを3倍にして(3人の人に)、次々と新しい人に贈っていくのです。善意のネズミ講です。「孟嘗君」(宮城谷昌光著)にも、田文(孟嘗君)と育ての親・白圭(風洪)との会話があります。「人生は、たやすい。人を助ければ、自分が助かる。それだけのことだ。助けてくれた人に礼を言うより、助けてあげた人に礼をいうものだ。文どのに、いいかったのはそれよ。」との、臨終間際の言葉でした。

ダスキン創業者・鈴木清一氏が正にそうだったように思えます。「喜びのタネをまく。人の成長を助ける。損の道をゆく。」その事が、人間としてかっこよく生きた人(人生)と言えるのではないのでしょうか。私たちも、微力ではありますが、ダスキンらしく、全体を見ながら皆のために長期的展望に立った視点で理事会運営をして参ります。

ありがとうございました。合掌

#### \* 新居浜支店の皆さまへ

本日9月1日(火)は、秋の活動がスタートする下半期に入ります。この日より、常務にはホームインステッド事業部を担当しながら、家庭用(ホームサービス)も担当させます。第2ブロックの店長も兼務します。HI の村上由紀さんも、先月本部のマネジャー研修を合格し、本日付で正式にHI マネジャーとしてスタートします。合わせて、HS へ新人の橋本裕子さんに入社いただきました。

組織、特に法人格を持つ会社は、永續させ生成発展させる責任と使命があります。なぜなら、会社では多くの人たちが働き、多くのお客さまに支えられているからです。丁度、明日9月2日は、株式会社ユキの創業47年目のめでたい創業記念日です。明日は47年間の苦闘の歴史を見直し、多くの方々に支えられた感謝の日々を振り返る時でもあります。会社を永續させることによって経営の理想追求や理念の浸透、働きさんの幸福の実現、お客さまへのお役立ち、地域への貢献等、企業としての役割を果たせるのです。個人も一代とはいえ、親からの恩や徳を継ぎ、次代の子どもや孫たちへ繋ぎ、命や念いを連綿と伝え続ける事が大事だと思います。永く続く事は奇跡であるとも思いますが、少なくともそのバトンを受け継いだ者なら、自分の代で終わることのないよう、できるだけ良い状態で次へ申し送れるよう努力したいものです。そうやって、日本の国家、地域、企業、それぞれの家系が現存しているのだと思います。創業の懸念日には、深甚なる感謝の祈りを捧げたいと思います。

ありがとうございました。合掌